



東アジアを中心とした世界各国から大学生・大学院生が集結!

東アジアの価値を知る講師陣による多彩なカリキュラム!

日本の古都・奈良がそのままキャンパスに!



2013

東アジア・サマースクール
East Asia Summer School

第3回東アジア・サマースクール 2013参加者募集!

募集期間

2013年4月1日～6月21日



はじめに

近年、グローバル化の進展により、時代は世界的に大きな転換期を迎えています。

特に、東アジア地域は世界経済に大きな影響を与える規模に成長していることから、互いの海外貿易や教育研究分野、自然災害対策に向けた連携や持続的発展に向けた施策や仕組みづくりへの対応を更に高めなくてはなりません。

そのためにも、地域の持つ役割が重要となり、その未来を担う人材は、自国を知り理解するとともに東アジア諸国の歴史や文化、政治経済、社会事情等の共通性や相違点をお互いが理解することが必要です。その上で、実際に対話し、相互交流をはかることにより、この地域における一体感を高め、互いの利益につながる施策を検証し、実行する意識をもつことができると考えます。

私たちは奈良県の持つ歴史的、文化的特色を活かしながら過去2回に渡り実施した「東アジア・サマースクール」を継続的に行うことで、新しい東アジアの未来を担うさらなる人材を育成する取り組みを展開します。

東アジア・サマースクールは

- ・東アジア共通の社会問題や課題に興味を持ち、理解を深めたい
- ・奈良や日本との文化的な交流に携わり、日本との懸け橋になりたい
- ・日本の大学に進学を検討し、さらに研究を深めたい

との考え方を持つ学生の参加を想定しています。

皆様のご応募をお待ちしております。



第79代内閣総理大臣
東アジア・サマースクール名誉塾長
ほそかわ もりひろ
細川 護熙

将来の東アジア地域の発展をリードしていくためには、グローバルな視点で考え、行動できる人材を育成することが必要であり、東アジアの若い世代が歴史や文化などの共通性や相違点を理解し、対話や相互交流をはかる機会を設けることは大変意義深いことです。

奈良は、日本が国づくりを進めた6世紀から8世紀に首都「平城京」がおかれた地であり、中国や朝鮮半島から技術や文化が伝わり、国づくりのための基礎が創されました。

そのような歴史を持つ奈良県が「歴史」への感謝の気持ちを込めて開催する「東アジア・サマースクール」において、東アジアの未来を担う若者達が東アジアの現状を学び、未来について大いに議論し、成長することを私も期待しています。



奈良県知事
東アジア・サマースクール塾長
あらい しょうご
荒井 正吾

グローバル社会における東アジアの発展を目指すために、次世代の人材育成や交流を目的として奈良県が開催する「東アジア・サマースクール」は、今夏第3回目の開催を迎えます。

本スクールのカリキュラムは多岐にわたり、歴史文化、環境や医療など各分野に精通した講師陣による講義のほか、文化財や先端技術に触れる研修、受講生によるレポート作成や成果発表など充実した内容となっています。

この「東アジア・サマースクール」に東アジア各国から多くの若者にご参加いただき、知的な交流を活発化させながら、相互の文化への尊敬を生み出し、将来的に東アジアの発展に寄与できる人材となってもらいたいと考えています。

開催概要

実施時期：2013年8月17日（土）～8月31日（土） 15日間

実施場所：奈良市（中心会場：奈良県立大学）ほか

名 称：第3回東アジア・サマースクール 2013

主 催：奈良県・奈良県立大学

募集人数：45名

参加資格：本研修の受講者は、下記の全ての要件を満たす者とします。

- ①日本語による大学レベルの講義やグループ討議、レポート作成等への対応が可能であること
- ②「東アジア地方政府会合」メンバー政府に関わりのある大学生・大学院生等で、地方政府からの推薦者であること
- ③研修の全日程に参加可能であること

参加費用：講義や視察・体験学習などにかかる費用、会期中の宿泊費、食費は主催者である奈良県が負担しますが、以下については自己負担もしくは地方政府で対応をお願いします。

- ①会場まで（海外から参加する受講生については関西国際空港まで）の旅費（往復）や食費、宿泊費等
- ②海外から参加する受講生は、事前に海外旅行傷害保険等に加入願います。
- ③個人的な飲食、交通費、土産品の購入費等は、各自で負担いただきます。

そのほか：①研修期間中の盗難、紛失、事故等については、主催者である奈良県は一切責任を負いません。

- ②受講者のみなさんは各講義終了後にレポート提出をお願いするほか、最終日までに2週間の学習成果を取りまとめていただき、発表していただきます。関係者で閲覧させていただくほか、その他事後も含めて公表することがあります。

カリキュラムの構成

※講師の都合等により変更する場合があります。予めご了承ください。

地球的な課題解決を担う未来のリーダーを目指すみなさんと共に、以下の学習目標に向けたカリキュラムを展開します。

【学習目標】東アジアの「共通性」や「関係性」に気づき、理解する事

(1) 【講義】(70分×15回)

東アジアの歴史、文化、政治・経済、環境、科学技術など各分野に精通した専門家による講義です。

(2) 【グループ討議】(70分×12回)

各講義の終了後には受講生の能動的な学習を実現すべく、専門家への質問や意見の交換ができる機会を提供します。

(3) 【レポート提出】(計6回)

講義の実施日には講義内容を各自で整理し、より深く理解する為に、設問に答える形で1日を振り返るレポートの提出をしていただきます。

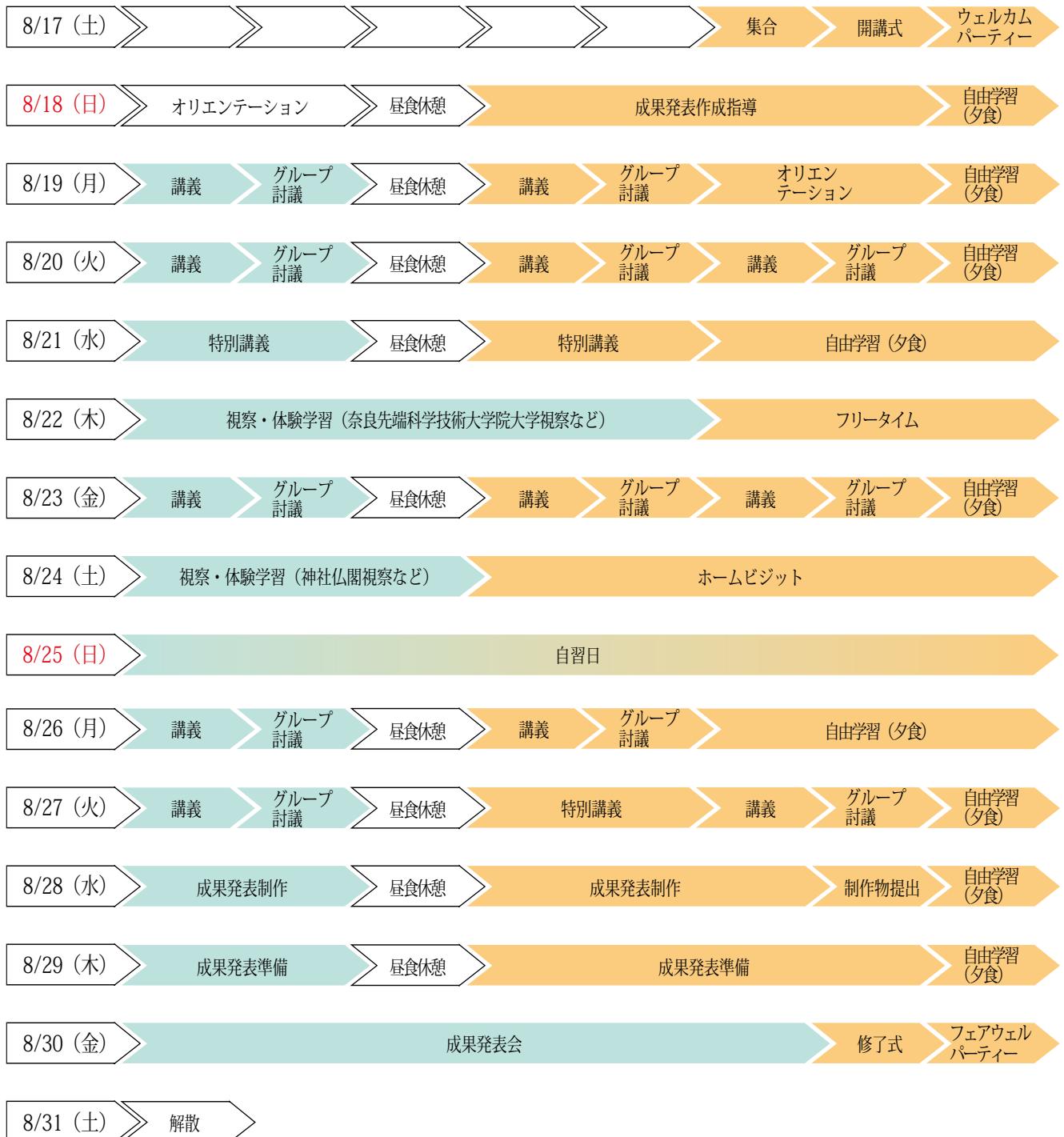
(4) 【視察・体験学習】(計2日)

新たな魅力や気づきを与える奈良県の魅力再発見につなげるプログラムとして、ホームビジットや県内の専門機関の協力による実際の現場を体感する視察などの体験学習を展開します。

(5) 【成果発表】

2週間のカリキュラムを通じて得られた成果を論文形式で整理していただき、発表していただきます。提出していただいた論文は後日編集し、共有していきます。

カリキュラム日程



※講師の都合等により変更する場合があります。予めご了承ください。

参加申込について

下記提出書類を揃え、締切日までに奈良県教育振興課に郵送、もしくは電子メールへの書類添付により提出してください。
応募書類受付後、奈良県教育振興課より受領確認をご連絡します。

(1) 募集期間

2013年4月1日（月）～6月21日（金）先着順（定員45名に達し次第、受付終了となります）

(2) 提出書類

- ①地方政府からの参加推薦書（別途書式）★各地方政府からの推薦者は2名以内とします
- ②参加者応募用紙（別途書式）

(3) 郵送で応募する場合の注意事項

締切日当日の消印有効です。

(4) 電子メールで応募する場合の注意事項

- ①全ての書類をpdfもしくはExcel形式にしてください。
- ②奈良県教育振興課で受領後、3日以内に電子メールで受領確認のご連絡を差し上げます。
- ③上記期日内に受領確認の連絡がない場合は、下記にお問い合わせください。

(5) 書類送付先、問い合わせ先

〒630-8501 奈良市登大路町30 奈良県教育振興課

E-mail : summer-school@office.pref.nara.lg.jp

提出書類は、選考の結果に関わらず返却しませんので、あらかじめご了承願います。

(6) 募集人数

定員45名とし、達し次第、受付終了します。但し受講生の国などのバランスを考えて選別させていただきますので、ご了承ください。

ご提出頂く応募書類の取り扱いについて

【個人情報の利用目的】

収集した応募者の個人情報は、以下の目的で利用させていただきます。当課は、ご本人の同意を得ないで、この利用目的の達成に必要な範囲を超えて応募者の個人情報を利用いたしません。

- ・当課が受講者の選考を行うため。
- ・「東アジア・サマースクール」にかかる、各種情報の提供や連絡等を行うため。
- ・応募者についての統計、データ分析を行うため。

【個人情報の取扱いについて】

当課は収集した個人情報を当課の責任のもとで適切に管理し、研修の受講に至らなかった場合は、当課の責任のもとで適切に廃棄致します。この場合、書類の返却は致しておりませんのでご了承ください。

参加決定の通知について

2013年7月初旬を目途に参加決定通知を送付いたします。

※研修の実施に支障が生じますので、原則として、受講が決定した方は参加をキャンセルすることはできません。

「東アジア・サマースクール」講師の方々をご紹介します！ この他にも各分野に精通した専門家が続々登場されます！！

【食文化】



秋野 晃司（女子栄養大学教授）

1947年生まれ。1973年立教大学大学院文学研究科修士課程修了・文学修士。1981年博士課程単位取得修了。国際基督教大学教養学部助手・講師などを経て、1989年女子栄養大学助教授。1997年女子栄養大学教授。担当科目は、食文化概論・文化人類学など。2002年国際交流基金ベトナム客員教授。2010年「食文化を通じた地域活性化」：日本総合研究所有識者委員。現在、アサヒグループ学術振興財団・委員や日本生活学会副会長を務める。主な著書に「食と健康の文化人類学」（学術図書出版）、「アジアの食文化」（建帛社）、「祭礼における共食儀礼」（早稲田大学国際医食文化研究所）、「グローバル化時代の日本の食文化」（早稲田文化人類学会第11巻）、「ジャワ人の食生活と健康観」（鍼灸106号）などがある。

【世界遺産教育】



石本 東生（奈良県立大学地域創造学部観光学科講師）

奈良大学地理学科卒業。イスラエル共和国留学時に同国観光省公認のガイドライセンスを取得。その後、ギリシャ共和国国立アテネ大学大学院歴史考古学専攻科博士後期課程を修了、Doctor of Philosophy（初期ビザンティン史）。欧米の二大思潮とも言えるヘブライズムとヘレニズムの歴史・考古学を広く研究し、帰国後はギリシャ政府観光局日本・韓国支局に12年間勤務。その間、ギリシャ・ローマ世界の世界遺産、文化遺産、無形文化遺産と観光との関わりについて事例研究し、且つギリシャ観光のPRを行ってきた。成熟したヨーロッパのヘリテージツーリズムと奈良のヘリテージツーリズムの比較研究が今後のテーマ。

【地域経済】



伊藤 忠通（奈良県立大学学長）

1953年生まれ。関西学院大学経済学部卒業、関西大学大学院経済学研究科博士課程後期課程修了。沖縄国際大学講師、同助教授、奈良県立商科大学助教授、同教授を経て、2001年4月より奈良県立大学地域創造学部教授。英国ウェールズ大学客員研究員（1994年7月～1995年3月）。2010年4月より現職。専門分野は財政学。

【国際経済】



佐藤 清一郎 ((株)大和総研 産学連携室 室長)

1958年山形生まれ。一橋大学経済学部卒業後、協和銀行（現りそな銀行）麻布支店入行。その後、熱田支店を経て経済企画庁調査局海外調査課（フランス経済、欧州統合）、協和銀行（現りそな銀行）証券部（日本国債運用）、90年に大和総研経済調査部へ入社（ソ連経済）。モスクワ国際関係大学留学（ロシア語）、JICAコンサルタント（インドネシア国の長期経済計画策定支援）、JICAコンサルタント（モンゴル国の工業化支援）を経て現職。

【環境】



田中 克 (京都大学名誉教授、(財)国際高等研究所チーフリサーチフェロー)

1943年滋賀県大津市生まれ。1971年京都大学農博士課程修了。その後、西海区水産研究所（長崎市）研究員、京大農学研究科教授、同フィールド科学教育研究センター長、マレーシアサバ大学持続農学部客員教授などを経て、2010年より(財)国際高等研究所チーフリサーチフェローに就任。NPO法人ものづくり生命文明機構理事。NPO法人森は海の恋人理事。

【歴史】



田辺 征夫 (奈良県立大学特任教授)

1944年三重県生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。文化庁美術工芸課主任文化財調査官、東京国立博物館学芸部考古課長、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部長、独立行政法人国立文化財機構理事奈良文化財研究所長などを経て、2011年より現職。主な編著書に『歴史考古学大辞典』(2007年、吉川弘文館)、『古代の都2 平城京の時代』(2010年、吉川弘文館)等がある。

【外交・国際交流】



谷野 作太郎 (公益財団法人日中友好会館顧問)

1960年東京大学法学部卒業。同年、外務省入省。中国課長、アジア局長等、主にアジア畠を中心に従事。ソ連（一等書記官）、中華人民共和国（同）、米国（公使）、韓国（同）等の在外日本大使館勤務を経験。また、内閣（故鈴木善幸総理秘書官、外政審議室長）、総理府等の役職を歴任。その間、サミット、日米・日中首脳会議、カンボジア和平東京会議などに参画する。1995年～在インド日本国大使、1998年～在中華人民共和国日本国大使。2001年外務省退官。同年6月、株式会社東芝取締役（2007年6月退任）、2002年4月、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科客員教授（2007年3月退任）を歴任。2007年10月株式会社東芝顧問（2009年9月退任）、福田総理の外交問題勉強会メンバーに就任。著書に『アジアの昇龍』（世界の動き社）。

【社会保障】



辻 哲夫（東京大学特任教授）

1971年東京大学法学部卒業後、厚生省（当時）に入省。老人福祉課長、国民健康保険課長、大臣官房審議官（医療保険、健康政策担当）、官房長、保険局長、厚生労働事務次官を経て、現在、東京大学高齢社会総合研究機構特任教授。厚生労働省在任中に医療制度改革に携わった。著書として、「日本の医療制度改革がめざすもの」（平成20年、時事通信社）、「2030年 超高齢未来」（共著、平成22年、東洋経済新報社）等がある。

【科学技術】



松本 紘（京都大学総長）

1942年生まれ、奈良県出身。2002年京都大学宙空電波科学研究センター長、04年京都大学生存圏研究所所長、05年京都大学理事・副学長を経て08年京都大学総長に就任、現在に至る。専門分野は宇宙プラズマ物理学、宇宙電波工学、宇宙エネルギー工学。06年Gagarin Medal、文部科学大臣表彰科学技術賞受賞、07年紫綬褒章受章。08年Booker Gold Medal受賞。主な著書に「宇宙開拓とコンピュータ」（共立出版1996年）、「京の宇宙学」（近代科学社2009年）、「宇宙太陽光発電所」（ディスカヴァー・トゥエンティワン2011年）など。

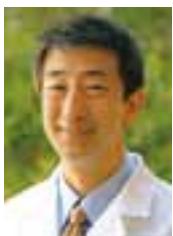
【国土政策】



森地 茂（政策研究大学院大学特別教授）

1966年日本国有鉄道入社。1967年東京工業大学理工学部助手。1996年東京大学大学院工学系研究科教授。2002年東京工業大学名誉教授。2004年政策研究大学院大学教授。運輸政策研究所所長。東京大学名誉教授。2009年政策研究大学院大学特別教授（現在に至る）。2010年日本交通学会著作賞受賞。主要な著作・論文は『首都圏空港の未来～オープンスカイと成田・羽田空港の容量拡大～』編著（運輸政策研究機構、2010）、『人口減少時代の国土ビジョン 新しい国のかたち「二層の広域圏」』編著（日本経済新聞社、2005）『国土の未来』編著（日本経済新聞社、2005）他多数。

【東洋医療】



渡辺 賢治（慶應義塾大学医学部漢方医学センター副センター長、診療部長、准教授）

1984年慶應義塾大学医学部卒業、1990年東海大学医学部免疫学教室助手、1991年米国スタンフォード大学遺伝学教室ポストドクトラルフェロー、1993年米国スタンフォードリサーチインスティテュート分子細胞学教室ポストドクトラルフェロー、1995年北里研究所東洋医学総合研究所、2001年慶應義塾大学医学部東洋医学講座（現漢方医学センター）准教授 現在に至る。

日本内科学会内科専門医、米国内科学会上級会員、日本東洋医学会専門医・指導医、日本東洋医学会副会長、和漢医薬学会理事、日本統合医療学会理事、（財）日本漢方医学研究所評議員、日本医学教育学会代議員、社会保障審議会統計分科会委員、厚生労働省統合医療のあり方検討委員会委員、Director of the Board, International Society for Complementary Medicine Research、WHO ICD改訂委員会委員。



第2回「東アジア・サマースクール」(2012年) 参加者からのメッセージ

参加前は、同じアジア地域に住んでいるのだから大きな違いはないだろう、と思っていました。

しかし、いざ参加して講義を聴いたり、多くの方々と意見を交換すると、食事・学校生活・文化・習慣など、本当に多くの違いがあり、驚くと同時に多くのことを勉強させて頂きました。3週間という時間に、様々な故郷から訪れた人々と話し、一緒に勉強し、意見を交換し合う中で、物事を考える際の視野を広く持つことができたと思います。



【日本・山梨県立大学国際政策学部総合政策学科 松宇 美由紀】



「東アジア・サマースクール」に参加して、私は沢山役に立つ経験をしました。

東アジアの国の歴史・文化について共通点と異なる点だけでなく、教育・科学技術についても学びました。また、体験学習とホームビジットで、日本の生活や文化について知ることができ、とても役に立ちました。私はいろいろな国の友達ができ、「東アジア・サマースクール」の3週間は本当にうれしくて幸せな時間でした。

【ベトナム・フエ外国語大学 チャン・タン・チャー】

「東アジア・サマースクール」をきっかけとして、私は日本という国を理解することができました。日本語学部の四年生としていつ日本に行けるか分からなかった私にとって「東アジア・サマースクール」はすばらしいチャンスを与えてくれました。「東アジア・サマースクール」があったから日本に行くことができ、日本を自らの目で見ることができました。



今、就職を決めた私にとって、「東アジア・サマースクール」に参加したことはずっと記憶に残ると思います。「東アジア・サマースクール」のおかげで私は視野を広げて、自分の人生をどのようにしようかと深く考えることができました。

【中国・東南大学外国语学院日本語科 代英】



「東アジア・サマースクール」は私に一生忘れられない思い出を作ってくれました。東アジアの国の人たちが集まって、環境、経済、文化、宗教などの同じテーマで自分の国のことでも話し、解決点を見つけようとするグループ討議も行い、とても有益な時間でした。

そして、約3週間の「東アジア・サマースクール」を通じて、お互いの国の協力があって、はじめて東アジア全体が発展していくのだということを痛感しました。

【韓国・大邱大学校日本語日本学科 ソン ジョンヒ】



